

# 出産と助産



## こんな時は診察をうけましょう！！

- ・激しい陣痛が30分以上続いている
- ・弱い陣痛が6時間以上続いている
- ・次の子犬が4時間経っても出てこない
- ・外陰部から緑色の粘液が出ており生まれる様子がない
- ・子犬は正常に生まれたが、子犬の数より胎盤の数が少ない

## 分娩

強い陣痛とともに外陰部から水様物の入った袋又は胎児が見えます。母犬は生まれた子犬を舐めて羊膜などを取り除きヘソの緒を喰いちぎります。子犬は舐められた刺激で鳴き始め、おっぱいを飲み始めます。母犬も子犬の世話を始めます。通常、15～60分で次の陣痛がおきます。次の陣痛がきたら、生まれた子犬は保温箱に入れて母犬からよく見える場所に置いてあげましょう。

母犬に無理に胎盤を食べさせる必要はありません。お腹を壊してしまう場合もあるのでなるべく食べさせないほうがいいでしょう。

## 産後の注意

母犬のストレスになるので、必要以上に子犬に構ったり抱っこしたりしないようにします。

子犬が前足でおっぱいを揉む様な仕草をしていたら、母乳がしっかり出ていない可能性があります。乳腺の出方には差があるため子犬を時々入れ替えて吸わせてください。また、母犬に十分な栄養と水分をたっぷり与えましょう。母犬は一日一度は様子を見てケアしてあげてください。

- ・おっぱいの確認・・・しこりができていたり、熱をもっていないか？（乳腺炎の確認）
- ・産後しばらくはおりものが出るので、清潔なガーゼでふき取る  
子犬は社会性がつく3か月くらいまで母犬や兄妹たちと育ててあげることが理想的だと言われています。

## 助産が必要な時

・頭や足が見えており強い陣痛が来ているが生まれてこない！

→タオルで胎児をしっかり掴み、陣痛に合わせてゆっくり引き出す。

※但し子犬を引き出す作業は5分以内。5分経っても出てこない場合や、片足だけが出ているような場合無理に引き出すのはやめ獣医師に連絡する。

・母犬がどうしたら良いかわからず、生まれた子犬の世話をしない！

→羊膜を破って子犬を母犬に舐めさせる。世話を始めない場合はヘソの緒を胎盤から2センチくらいで切り、自発呼吸を始めるまでタオルなどで少し強めに子犬をこする。鳴き声を聞いたり、おっぱいを吸わせたりすると母性本能で世話を始めることもあります。

どうしても世話をしない場合は飼い主さんが世話をしましょう。  
助産が必要だが、どうしてもいいかわからないという時には相談してください。

## 助産のやり方と、いざ、という時の子犬レスキュー方法

### 1 ヘソの緒をおさえながら赤ちゃんを引き出す

胎盤が切れないようにヘソの緒を持って引き出します。引っ張るときは陣痛の動きに合わせてみましょう。羊膜は分娩の時に破れるのが一般的だが破れない時は②へ

### 2 膜を破り、ティッシュで鼻と口を拭う

顔部分の膜をはじめに破ります。足や首が動くか、腹部が上下しているか（呼吸しているか）確認し、鼻や口に入った羊水を拭いとります。（胎盤とヘソの緒はまだ切らない）

### 3 すばやくヘソの緒を切る

消毒液と脱脂綿でヘソの緒と糸を消毒し、ヘソの緒（お腹から1～3センチ）を糸でしっかり二重に縛り止血します。糸の上約1cm程度のところをはさみで切ります。※手間取るようなら胎盤を付けたまま④へ進み、後から切ってもOK

### 4 産声を上げていない、呼吸をしていない！？ 生まれてから15分間勝負！産声をあげるまで 『心臓マッサージ』『羊水振り出し』『背筋マッサージ』

#### 『心臓マッサージ』

①体を両手のひらにのせ、頭部を固定し安定させる。  
②胸のあたりを指で押す。(20～40回/分)  
両手のひらの上に寄せ、親指で押してもOK

#### 『羊水の振り出し』

①両手のひらの上に寄せ、首から頭部を固定する。  
②思い切り振りかぶって振り下ろし、鼻口につまった水気を出す。  
鼻口を拭いたり、飼い主が口で吸いだしてもいい

#### 『背筋マッサージ』

①体が冷えないように、全身のぬめりを取り乾かす。(ぬるま湯につけて洗っても良い)  
②片手で首がぐらつかないように子犬を支え、タオルで背筋をゴシゴシこする

### 5 母犬の乳首につけ、おっぱいを吸わせる

くくん産声を上げているか確認する。首を伸ばしたり、足が動いたりしているか確認する。初乳は母犬の免疫や栄養が含まれているため、必ず飲ませます。

舌が紫色なら酸素が欠乏しているだけなので、急いでマッサージと羊水の振り出しをしよう

子犬の一年間スケジュールも参考にしてください。

ライオン動物病院 フリーダイヤル 0120-137706

この案内は、愛犬の出産を勧めるものではありません。子犬が生まれた後のことも考え、計画的に出産や避妊を考えましょう。